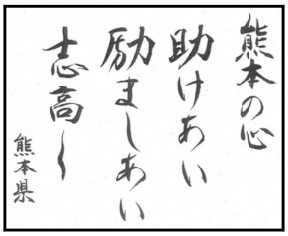
合志の旋風（かぜ） ～自律協働貢献～

令和８年４月２４日（金）No ３発行
文責：松本　卓也

災害が起きても、誰一人取り残されない社会をつくること



震度７の地震を２度観測し、甚大な被害をもたらした熊本地震から16日（木）で10年が経過しました。震災の年の2016年に生まれた子どもたちは、現在小学４年生です。県内で最も大きな被害を受けた益城町で、先月、県道熊本高森線の４車線化が全線で供用を開始する等、復旧・復興は確実に進んでいます。16日に行われた合同犠牲者追悼式では、木村知事は、「発災から10年となる本年は、復旧・復興の歩みを改めて振り返るとともに、『災害に強い熊本』の実現に向けた取り組みを一層前進させ、創造的復興を遂げゆく熊本の姿を全国へ発信していく重要な１年と認識しています」と述べました。高校生「誓いのことば」では、

熊本地震から10年がたった今も、私たちは当時の記憶を胸の奥で静かに抱き続けています。10年前、私たちは小学１、２年生と幼く、地震を経験したことがありませんでした。突然襲った大きな揺れの中で、何が起きているのかよく分からず、ただ強い恐怖を感じていたことを鮮明に覚えています。大きなサイレンの音を聞きながら、割れた道路や崩れた家を横目に、家族とともに必死の思いで避難所へ向かいました。避難所では、大学生や大人の方々が優しく声をかけてくださり、温かい食事を分けてくださいました。不安でいっぱいだった私たちに寄り添ってくださったその温かさに触れ、恐怖の中でも少しずつ安心と笑顔を取り戻すことができました。その時に感じた人のやさしさを、私たちは決して忘れることはありません。（中略）

もし今、10年前のあの日と同じことが起こったとしたら、私たちはどのように行動できるでしょうか。復興が進んだ今だからこそ、私たち若い世代が果たすべき責任があります。それは、防災への意識を持ち続けること。地域とのつながりを大切にすること。誰かが困っているときに、「大丈夫ですか」と声をかけられる優しさを失わないこと。そして、災害が起きても、誰一人取り残されない社会をつくることです。（中略）

あの日、私たちが支えられたように、今度は私たちが誰かを支える存在となることを目指し、さらに、震災を知らない世代が増えていくこれからにおいても、その記憶と教訓を語り継ぎ、風化させることなく未来へとつないでいきます。そして、誰一人取り残さない社会、誰もが安心して暮らせる地域の実現に向けて歩み続けていくことを、ここに固く誓います。

令和８（2026）年４月16日　熊本市立必由館高等学校　Ｈさん・Ｔさん
熊本市立千原台高等学校　Ｋさん・Ａさん

と、自身の体験や意見をもとに震災の記憶と教訓の継承を力強く誓いました。

地震後の厳しい避難生活において、当時の子どもたちは、自分にできることを探し、周りの人を助け、自ら立ち上がり、動き出しました。そのような「助けあい、励ましあい、志高く」とした熊本の子どもたちの姿は、ずっと語り継ぐべきものだと考えています。私たちの責務として、熊本地震の経験や教訓を風化させず確実に後世に伝承するとともに、目の前の子どもたちに災害から命を守る意識と行動力を育てていきたいと思います。

共育を目指して･･･

14日（火）に３年生、16日（木）に1･2年生の授業参観および学年・学級懇談会を開催しました。懇談会では、子どもたちの様子や行事の説明に加えて、ご家庭での見守りをお願いしました。ご家庭と学校が同じ方向を向き、「共に子どもを育てていく」視点を大事に教育活動を進めてまいります。【写真上：１年懇談会、写真下：PTA運営委員会】

令和８年度の職員を紹介します Part1

○３年部		○２年部	
主任	○○○○（英）	主任	○○○○○（社）
１組担任	○○○○（英）	１組担任	○○○○（英）
２組担任	○○○○（体）	２組担任	○○○○（理）
３組担任	○○○○○（音）	３組担任	○○　○（数）
４組担任	○○○○（理）	４組担任	○○○○（技）
５組担任	○○○○（理）	５組担任	○○○○（音）
６組担任	○○○○（社）	６組担任	○○○○○（体）
７組担任	○　○○（社）	副担任	○○○○（数）
副担任	○○○○（数）	副担任	○○○○（国）
副担任	○○○○○（国）		

はじめまして！　どうぞよろしくお願いします

※ご意見や感想をお待ちしています。「見ました」の一言でも構いません。

保護者名（　　）